

顔中に赤黒い内出血が… 手足も腫れ上がる 新型コロナワクチン接種後に夫が難病を発症し死亡 「検証されないと無駄死に」【“ワクチン後遺症”を考える シリーズ9】

12/31 CBCテレビ



▼CBCでは新型コロナワクチンの副反応問題などについて、2021年から取材を進めてきました。これまで放送した内容を複数回に分けて振り返ります。この記事は、2024年に放送したものです。

新型コロナワクチンの接種後に難病を発症し、その後亡くなった男性の妻を取材しました。医師が因果関係を否定する中、それでも国へ救済申請をした理由とは。

愛知県内に住む、64歳の女性。

(大石邦彦アンカーマン)「あっ、これは…」

(女性)「主人がいつ帰ってきてもいいように…」

(大石)「ご主人の靴とスリッパが…ご主人亡くなつてどれくらい経つ?」

(女性)「5月の29日でちょうど1年」

女性の夫は2023年5月、脳出血のため64歳で亡くなりました。

男性に異変が起きたのは、2022年4月。3回目のワクチンを打った半月後でした。

■ 「体をかきむしり、血が止まらなくて」

(女性)

「(4月に接種した)直後は特になかったが、ゴールデンウィークくらいからよく(体を)かきむしったんですね。そうすると血が止まらなくて何か所も出血していて、『おかしいね』という話はしていた」

健康に気をつかっていた男性は2か月に一度血液検査を受けていましたが、正常であれば15万以上ある血小板の数値が7000しかなくなっていました。

医師の診断は「特発性血小板減少性紫斑病」。

免疫の異常によって血小板が減る難病で、ワクチン接種によつても起きることを厚生労働省も認めています。

■顔中に赤黒い内出血が 手足も腫れ上がる

(女性)

「これは、病院で医師が取った写真」

(大石アンカーマン)

「このあたり、あざのようになりますよね…」

記録として残すために撮影した写真。顔中に赤黒い内出血があざのよう広がり、手足も腫れ上がりました。

そこから、急激に体調は悪化。

(女性)

「紫斑がひどくなつたすぐ後に、おなかが痛いということで病院の救急外来へ行つたら、

『小腸壊死ですぐ緊急手術』と言われて…」

2022年10月には、血栓ができて小腸が壊死し、緊急手術で60センチも切除。去年4月には出血で左目を失明。翌月、脳出血で亡くなりました。

■ “ワクチンの死亡事例”の報告を担当医師は断つた

(女性)

「血小板減少性紫斑病が重症化すると、1割くらいの確率で脳出血のリスクがあると出ていましたので、うちの主人は10%の中に入っちゃつたんですよね」

(大石)

「ワクチンとの関係があると思っていた?」

(女性)

「私は思っていた。亡くなった原因が脳出血だったので、脳神経外科の先生に『ワクチンの副反応じゃないですか』と言つたら、『否定はできないから』というふうに言われたので、救済制度に申請することにした」

夫の死をワクチンの死亡事例として国に報告してほしいと頼みましたが、「因果関係が分からぬ」と担当の医師には断られました。

女性は去年7月、国の救済制度に申請。

そこには、救済以外にも認定を求める大きな理由が。

(女性 64歳)

「もし認定されれば、もちろん国の責任を追及したい」

■ 「健康でいるために打った予防接種で命を落とすなんて…」遺族の叫び

(大石)

「患者の会、そして遺族の会で結成されました原告団が、いま東京地方裁判所に入ろうとしています」

2024年4月提訴された、ワクチンを巡る初の集団訴訟。

(青山雅幸弁護士)

「今回の集団訴訟は国の不正義を問い合わせ、それをただすための訴訟です」

2193人の死者、約3万7000件もの副反応報告（当時）が出ている中、患者と遺族あわせて13人が、ワクチンによる健康被害を薬害と認めて謝罪することと、慰謝料など約330万円の支払いを求めて国を訴えました。

(接種後 息子を亡くした 東正秋さん)

「ワクチンの安全性だけを強調し、危険性の情報は皆無に等しかった国の責任は重大だと思います」

(10代の息子を亡くした女性)

「健康な体でいるために打った予防接種で命を落とすなんて、思ってもいなかった。10代で命を落とすことになった息子を返して下さい。どんな思いで、残された家族は毎日を生きているか、少しでも分かってください」

■夫を亡くした女性「検証してもらわないと無駄死に」

原告団に加わる条件は「救済認定を受けていていること」で、女性も亡くなった夫の認定を受けて訴訟に参加したいと考えています。

(女性)

「ワクチン接種した後の経過ちゃんと検証して、次の世代の人にもやっぱり伝えていかなきやいけないと思う。検証してもらわないと、うちの主人も無駄死になってしまふし、他の亡くなった人も浮かばれないと思う」

「まさかこんなに早く亡くなるとは思っていなかったので、2人で80歳までは生きるつもりだったので、いまから旅行にでも行ってと思っていた」

結婚してことで37年。今は毎日、夫が使っていた部屋で過ごしています。

(女性)

「主人の代わりに、クマのぬいぐるみを置いています」

5月末で一周忌。真相究明を求めていく気持ちを固めています。

(女性)

「本当は一周忌終えたら、私も死にたいなと思っていましたが、裁判があると言うことでちょっと道筋ができたので、それを見届けるまでは頑張ろうかなと」

「主人は裁判を喜ばないかもしれないですが、浄土で会ったときに『こうだったよ』と報告したい」

CBCテレビ「チャント！」2024年5月放送より

【“ワクチン後遺症を考える”これまでの記事】

▼新型コロナワクチン接種後に急死… 検視をしても原因不明 医師が注意呼び掛ける“ある副反応”

▼新型コロナワクチンを打っても“未接種扱い”に 厚労省「理由は不明だが意図的なものではない」 突如データ“修正”

▼波紋広がる 厚労省のずさんなデータ分類 不可解な修正 食い違う主張

▼新型コロナワクチン接種5分後に「手足がビリビリと痺れて…」 厚労省の現場職員“データ修正”認める

▼体温計に残された41.5度の表示 ワクチン接種後に39歳息子が死亡 「検視時の体温が非常に高かった、普通じゃ考えられない」

▼「溺れるように苦しくて」 新型コロナワクチン接種13分後にアナフィラキシー 突然膝から力が抜け歩くこともままならず

▼浴槽に沈んでいた13歳の息子 新型コロナワクチン接種数時間後に急死 因果関係は“評価不能”

▼「娘の顔が分からない」 5回目のワクチン接種後に起きた“異変” 震えが止まらず発

熱・記憶障害も… 当然とされた医療従事者の接種

▼顔中に赤黒い内出血が… 手足も膨れ上がる 新型コロナワクチン接種後に夫が難病を発症し死亡 「検証されないと無駄死に」

▼「私は歩けないんです。排せつができないんです」 新型コロナワクチン接種後に“下半身不随”の男性 国の結論は“評価不能”

▼「接種後 首に痛みが…」 “ワクチン後遺症” 教える大学教授 当事者になって知った救済制度の高い壁

▼高校2年の夏休みに… 新型コロナワクチン接種後 “原因不明の疾患” 副反応の救済申請を自治体は1年半放置していた

▼「元の体に戻りたい」「薬害だと思っている」 “新型コロナワクチン後遺症” に悩む患者たち 救済されずかさむ医療負担